

# 牧草と園藝



# 果樹関係用語の解説(1)

北海道農業試験場 園芸作物第1研究室長

西山保直

果樹園芸には、他の分野ではあまり利用されていない内容の用語が多用されている場合が多い。主なものについて解説を試みる。なお用語の字句は、日本園芸学会編の「園芸学用語集」に準拠した。

## 繁殖関係

**つぎ木** 樹から切りとった芽や枝を(穂木)、根をもった他の樹(台木)の幹や枝に接着させ癒合させること。繁殖や、苗木生産の手段以外にも、傷害部分を補充したり、台木を選択することにより、樹の大小、豊産性、品質、熟期などを変換することに広く利用されている。古くから多数の方法が案出されているが、分類するとおおよ次のようになる。

### 1. 台木の取扱いによる分類

居つき 台木が植わっている場所でつぎ木する。

揚げつき 台木を掘上げ、つぎ木後苗床に植えこむ。

### 2. 穂木ならびにつぎ方による分類

#### (1) 穂木を自根より切りはなさない方法

寄せつき 穂木、台木ともに自根と頂部をもっている場合

添えつき 台木は自根と頂部をもつが、穂木は自根を有し、頂部をもたない場合

#### (2) 穂木を自根より切りはなしてつぎ方法

枝つき 1~3芽を有する短小の枝条をつぐ

芽つき 芽の部分をはぎとり、これを台木につぎ方法

枝つきには、さらにつぎ方により、切りつき、割りつき、くらつき、合せつきなど、多くの名称がつけられているが、リンゴ、ナシの苗木をつくるには普通切りつきによっている。

さらに時期により休眠期つき、発育期つきとに分けられる。

接木の実施時期としては、繁殖に多用される切りつぎの適期は、北海道で4月下旬~5月中旬である。ただし穂木がよく貯蔵されていて発芽していないことが必要である。芽つきでは8月中旬~9月上旬の時期に実施される。

このほか、主枝更新のため使われる**高つき**がある。これは、主枝の先端、側面に穂木をつぎ木することである。

**さし木** 樹の栄養器官の一部を母体から切りはなして、これを砂、土、その他の床土にさし、発根、発芽させて独立の個体を得る無性繁殖法で、枝さし、根さし、葉さしの3法がある。枝さしの場合、まだ生育中の緑色の枝を用いるものを**緑枝さし**、生育が終った枝を用いる場合**熟枝さし**と称する。種子による繁殖では、先祖の形質を分離する機会が多いが、さし木では母樹と同一形質の植物を簡便に得ることが出来るのでよく利用されている。しかし、さし木の可否は果樹の種類でさまじり、同一種類の果樹でも、部分、樹令、季節、その他の環境条件で可

否が左右される。一般に古すぎる組織や、若すぎる組織は活着が悪いのが普通である。ブドウ、小果樹類はさし木が可能であるが、主要な果樹はさし木が困難なものが多く、繁殖にはつぎ木が利用されている。

**とり木** 母樹の枝条を土中に伏せるとか、水ごけで包むとかして、枝条より発根させ、これを分離して独立の個体として繁殖利用する方法である。母樹と同一形質のものを得ることは出来るが、繁殖用の母樹を用意しなくてはならないこと、一つの母樹から取れる苗木に限りがあり、一度に多数の繁殖が困難である欠点がある。やり方によって、先取式、黄化とり木式、盛土式などに区別されており、キイチゴ、オウトウの台木(マハレブ、マザード)、リンゴの台木(E M系、MM系)などの繁殖に利用されているが、効率は良くない。

**穂木** つぎ木において、台木につぎ方の材料の枝を穂木と称する。穂木から実際につぎ木する**つぎ穂**を作る。リンゴ、ナシなどの場合、穂木は秋の落葉後から冬季の間に、よく充実した一年枝を採取し、低温で貯蔵するのが普通である。切りつぎの時、この穂木の中央部の芽の充実した部分を2~3芽、7~8cmの長さに切り取り、つぎ穂として使用する。

**台木** つぎ木でつがれる方、つまり根を有する方を台木と称する。台木はつぎ穂と活着し、正常に生育させること(つぎ木親和性)が必要であり、多くはつぎ穂と近縁の植物が利用される。台木は、その種類、品種によって地上部の発育に大きく影響を与えるものがあり、とくにわい性にするものを**わい性台木**、半ばわい性にするものを**半わい性台木**、普通あるいはそれ以上に発育せしめるものを**強勢台木**といい、さらに**半強勢台木**、**標準台木**、**半標準台木**という用語ももちいられる。また、特定の病害虫に強い台木、たとえば、ブドウのフィロキセラに強い台木、リンゴの綿虫に強い台木などをその病害虫に対し、**免疫性台木**という。

**E M系台木**、**MM系台木** 古くからヨーロッパでリンゴの台木として使用していたパラデー、ゾーサンなる台木から、イギリスのEast Malling 試験場で選抜した台木をE M系台木、またEast Malling 試験場とMertonにあるJohon Innes 試験場と共同で同様選抜したものをMM系台木と称し、E M系はIからXXVと、26、MM系は101から115の系統に番号が付されている。この系統のなかにはわい性台木から強勢台木まで含まれており、わが国へはすでに昭和の初期から導入されていたが、近年これらの系統の中から特にわい性台木に属するものが広く紹介されるに至り、この用語が広く知られるようになった。MM系、E M系台木の系統のすべてがわい性台木であるかに理解されているむきがあるのは誤りである。